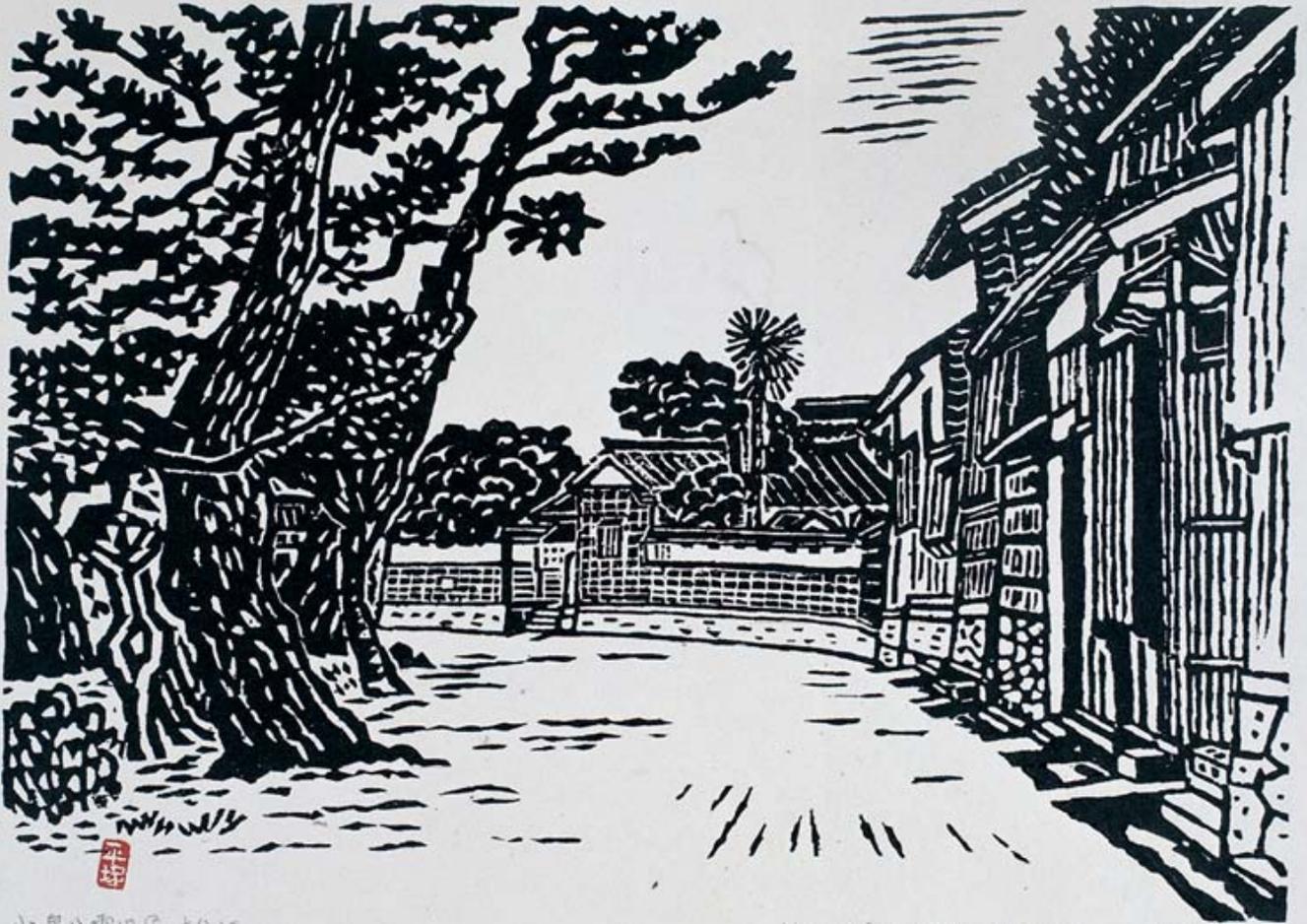


第14回

しまね景観賞



小泉八雲旧居、松江

Um-iohi Hiratsuka 1948

島根の景観	ふるさと	育てよう	創り	守り
-------	------	------	----	----

島根県

表紙のご紹介



「小泉八雲旧居 松江」
1948(昭和23)年 木版・紙
(島根県立美術館所蔵)

日本の版画史に大きな足跡を残した松江市出身の版画家平塚運一の代表作である。城下町松江の面影を残す塩見縄手の風景で、しっとりとしたおもむきの伝わる作品。現在もほぼこのままの景観が残されているが、戦後まもない頃の塩見縄手は、まだ道路が舗装されてなく、城下町の情緒をより醸し出している。東京で版画家として活躍していた平塚は、戦後、田部長右衛門の援助により松江に美術工芸研究所が新設された時、講師として教えるためしばらく松江に帰ってきていた。この頃、久し振りのふるさとを熱心に描いている。その中でも郷土への愛情が自然と溢れている優品である。

平塚運一(ひらつかうんいち) 1895(明治28)年～1997(平成9)年
松江市の宮大工を生業とする家に生まれる。18歳の時フランスから帰国した洋画家石井柏亭による松江での講習会に参加し画家になることを決意。上京して版画を学び、大正13年日本創作版画協会、および国画会会員となり、日本の創作版画運動の中心となって活躍する。初期は木口木版や、多色摺りの版画を手がけたが、次第に版画の原点とも言える墨一色で摺る黒白版画を追求し、多くの名作を残した。東京美術学校の版画教室の講師として教え、全国で版画講習会を行い、専門家から庶民まで広く版画を普及した。晩年アメリカへわたり、海外でも木版画を普及するなど、版画三昧の102年の生涯を送った。松江市名誉市民。



島根県知事

澄田信義

はじめに

私たちのふるさと島根では、美しい自然の景観、人々の営みから創り出された農山漁村の景観、先人の知恵が活かされた歴史的な景観など、それぞれの地域で特色ある景観が生まれ、形造られています。こうした優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り、育てることを目的として、平成3年に「ふるさと島根の景観づくり条例」を制定し、様々な取り組みを行ってきました。

第14回を迎える「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献している建造物等を表彰し、快適で文化の薫り高いふるさと島根の景観を形成していくことを目的として実施してきました。それぞれの地域において、ゆとりや豊かさを実感できる魅力ある景観が数多く形成される中で、今回を含め、これまでに152件が受賞され、多くの県民の皆様の高い関心を寄せていただいております。

今回は、大賞の「水仙の花咲く里づくり」及び「島根県芸術文化センター グラントワ」をはじめとして、12件の建物や活動などを表彰いたしました。受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、御尽力いただきました審査委員の皆様や、応募をいただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

今後とも、本県の魅力ある景観の保全・創造に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

平成19年2月

選考総評

14回目を迎えた「しまね景観賞」の応募総数は、89件であった。ここ数年に比べれば少ないが、近年の公共事業等の削減に伴う土木施設や公共建築物の減少を差し引いて考えれば、この賞が県民の方々に広く受け入れられてきていることがうかがえる。

選考に当たっては、書類審査による第1次審査において、まず34物件を選定し、第2次審査では、現地審査と最終審査会を行い、次の12件の建築物や活動等を選定した。

大賞は、『水仙の花咲く里づくり』と『島根県芸術文化センター グラントワ』である。前者は、民有地でありながら土地所有者の理解を得て、地域の人たちが小・中学生と共に毎年水仙を植え付け、その結果、全国でも有数の水仙園になりつつあり、さらに今後も拡がっていく仕組みが出来上がっていることが高く評価された。後者は、石州瓦を28万枚使用した瓦の建築であり、石州瓦の家並みが並ぶ美しいしまねの景観を第一に意識し、益田の市街地景観の核となっていることが高く評価された。

優秀賞は4件である。「まち・みどり部門」から選ばれた『鉄の歴史村の町並み』は、たたら製鉄で繁栄した時代の面影が偲ばれ、よく手入れされた町並みである点が評価された。「土木施設部門」から選ばれた『寺町地区のまちなみ環境整備事業』は、寺町の特徴をよく捉え、落ち着いた空間を作り出している点が評価された。「公共建築物部門」からは、周辺の住宅に違和感なく佇んでいる『松江市営住宅 荻田団地』が選ばれた。「工作物その他・活動部門」からは、台風により倒れて枯死した名勝の一本松を地元住民等の寄付によって再生させた『掛戸松島の一本松再生』が選ばれた。

奨励賞は6件である。「まち・みどり部門」から選ばれた『パークタウン出雲』は、電柱の地中化や地区計画制度の利用による良好な住宅環境の形成が評価された。「土木施設部門」から選ばれた『江島大橋』は、PCラーメン橋としては日本一の長さで、中海の新たなシンボルとなっている点が評価された。「民間建築物部門」からは、建物のセットバックにより周囲に広がり潤いを与える『Audi山陰』と、ファサードを黒一色で統一し、質素で落ち着きのある『荒木文之助商店』が選ばれた。「個人住宅部門」からは、地域の伝統的な民家を再生した『藤野邸』と、木のもつ柔らかさを醸し出している『伊藤邸』が選ばれた。

今後も、さらに多くの県民、事業者の皆さんが、よりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれることを期待してやまない。



しまね景観賞審査委員会
委員長

藤岡大拙

大賞

水仙の花咲く里づくり



所在地 益田市西平原町

事業主体 鎌手ふるさとおこし推進協議会

概要 平成4年唐音海岸に植え付け開始
小・中学生、老人クラブも世代間交流の場として参加し、毎年10a余りの植え付けを行い、平成18年には1.9haとなった。

日本で最大の水仙園が近い将来出来上がり、さらに拡大していくことを願う

日本海の美しい海岸が連なる、島根の中でも人目を惹きつける、天然記念物に指定された有数の海岸である。唐音の蛇岩、なるほど、溶岩の跡が連なって、蛇のように見える。奇景、というか、自然の不思議な美学を感じる。ここは、磯釣りのメッカでもあるという。普段は人が訪れなかったこの美しい海岸に、水仙の花咲く園が毎年、毎年広がりつつある。鎌手の小学、中学の卒業生が、地域の人たちと共に毎年水仙を3万球ずつ植えていく、そうした取り組みは10年近くにもなり、これからさらに続いていく仕組みが出来上がっているのが素晴らしい。

水仙は、もともとここに自生していたと言うが、『出雲風土記』に水仙は出てこない。日本には朝鮮半島を通じて、平安時代にもたらされたと考えられる。北限は越前、太平洋岸だと千葉という。淡路島など、水仙園の先達はあがるが、全国でも有数の水仙園になりつつある。山は全て民有地である。土地所有者の理解も徐々に広がり、花咲く季節に訪れる人々も増えつつある。

日本で最大の水仙園が近い将来出来上がり、さらに拡大していくことを願う。

(布野修司)



大賞

島根県芸術文化センター グラントワ



- 所在地** 益田市有明町
事業主体 島根県
設計者 ㈱内藤廣建築設計事務所
施工者 大成建設・大畑建設・日興建設特別共同企業体、大畑建設・日興建設特別共同企業体、㈱田部益田営業所、大畑建設㈱
- 概要** 島根県立石見美術館、島根県立いわみ芸術劇場
構造 RC造、一部PC、S造
地上2階・地下1階建
建築面積 14,068.15㎡
延床面積 19,252.45㎡
完成 平成17年9月

石州瓦の家並みが並ぶ美しいしまねの景観を第一に意識した表現に、まずは敬意を表したい

石見待望の芸術文化の拠点である。出雲にはない先端施設の誕生である。無窓で巨大な量塊は、落ち着いた町にはいささか威圧感があるが、市街地景観の核となる。大きい屋根(グラントワ)とネーミングされたこの施設が豊かな果実を産んでいくことを期待したい。

石州瓦を28万枚使ったというグラントワは、まさに瓦の建築である。焼きが足りなくて黒ずむなど、時間の経過と共に味がでる瓦の魅力を意識して、五種の色を瓦を用意して混ぜ葺きするなど、意が匠まれている。石州瓦の家並みが並ぶ美しいしまねの景観を第一に意識した表現に、まずは敬意を表したい。

大ホール、小ホール、美術館、スタジオなど多彩なプログラムも、立ち上がりは素晴らしく、何よりも、薄く水を引いた(雨水利用)中庭の空間が、様々に利用可能で面白い。建築としても、床のレベルを揃える(バリアフリー)などそつはない。瓦、打放しコンクリート、木というのもシンプルで安定している。壁には瓦を用いない手法もあったと思うが、このグラントワを景観の核として、益田の街がより一層すばらしいものになることを願う。

(布野修司)



優秀賞 鉄の歴史村の町並み



- 所在地** 雲南市吉田町吉田
- 事業主体** 吉田町まち並委員会
- 概要** 平成12年3月「吉田町街並協定」締結
協定者 3事業所、67世帯（平成18年現在）
建具・門の修景、瓦の色彩統一、表格子の設置、
商店看板のデザイン化など

四季折々の風情が楽しめそうでフッと誘われ散策したくなるような心安らく町並み

秋も深まり少し紅葉した周辺の山々と町の吉田町を歩く。たたら製鉄で繁栄した田部家がある吉田町の中心部は「企業城下町」として活気づき、生活風土と文化の名残りを濃く残し往時の面影がしのばれる家並みが続く。全体としてよく手入れされ落ち着いた町である。

なだらかな石畳の道を上る手前にはその田部家の歴史を刻んだ白い重厚な美しい土蔵が六棟建っている。歩いていると北前船による出荷に因んだ品々も「北前船一坪博物館」として商家の店先に展示され趣きをそえている。道の中程にはツーリズムの宿「若槻屋」があり、元庄屋を改築した明るく軽快な景観の二階建ての、カフェやショップを兼ねた気持のよい建物である。向い側には「鉄の歴史博物館」、これも伝統的民家である。その入口や「若槻屋」の表庭先の白いさざんかの花の下、他所々にこの町出身の彫刻家内藤伸氏のブロンズ像が置かれ、一段と町の風格にアクセントを与えて快い。また、店々には木製の字を彫り込んだ看板が掛けられたり、立看板が置かれたりしており、温かい雰囲気を醸し出している。

そしてこの二百六十米の道の周辺は、家並みから縦横に走る小路まで石畳で丁寧に整備されており、四季折々の風情が楽しめそうでフッと誘われ散策したくなるような全体として心安らく町並みである。

(山谷裕子)



優秀賞

寺町地区のまちなみ環境整備事業



所在地 松江市寺町

事業主体 松江市

設計者 (株)LAT環境設計事務所山陰支店

施工者 (株)松陽建設、(有)大正土木、東建設(株)、太陽工業(有)、(有)大喜土建、日発工業(株)

概要 道路の美装化(切石張舗装(御影石)、洗い出しアスファルト舗装等) 3路線
 延長 462m 全幅 5.7m~10.5m
 照明灯8基、足元灯10基、小公園2箇所、鞆庫1棟
 完成 平成15年3月

人間的なスケール感と来待石の足元灯など ディテールに繊細な気配りがあり気持ち良い

寺町は古く、松江開府によって城下町建設の一環として作られたといわれている。この地区は名称のとおり大きな寺の集積地で、沢山の墓と住宅、店舗が立ち並ぶ。

この整備事業は寺町の特徴を良く捉え、屋根の燻し瓦、漆喰の壁や樹木などの雰囲気をもっと生かし特色ある町並みを再生し、落ち着いた空間を作り出している。

交通量の多い駅通りの北側に面し、一歩曲がるとしっとりした佇まいの小路に入り騒音も気にならない。舗装は自然石の洗い出しと石畳でさり気無く、色彩のトーンも落ち着いたものになっている。人間的なスケール感と来待石の足元灯などディテールに繊細な気配りがあり気持ち良い。

望めるものならば、寺町地区に隣接する駅通り、和多見町や白潟本町との関係性で、これら広い地域全体を一体感のある空間として捉えてあれば、今以上にお互いの町が生きるのではないだろうか。

骨組みは出来上がった。今まで以上に住民の皆さんが周辺の調和を考えられ、潤いのある美しい町に作り上げてほしい。

(平本映子)



優秀賞

松江市営住宅 萩田団地



- 所在地** 松江市宍道町佐々布
- 事業主体** 松江市
- 設計者** (株)寺本建築・都市研究所
- 施工者** カナツ技建工業(株)、(株)増原産業建設
- 概要** 構造 RC造 地上2階建
 建築面積 727.17㎡
 延床面積 1,029.17㎡
 完成 平成18年1月

周辺との調和を図るための工夫が随所になさ れていることが評価された

松江市郊外の比較的新しい住宅団地に建つ市営住宅。

この建物はRC造2階建てで、程良い広がりを持つ中庭をコの字型に囲んで建っている。各住戸はメゾネットとフラットタイプが組合わさっていて、敷地に沿って少しずつずれながら、しかも分節ユニット化されたその棟構成は、穏やかな曲面屋根と相まって、親しみやすいスケール感と共に変化のある豊かな外部空間を生み出している。この事によって周辺に多くある瓦葺き一戸建ての住宅群とはボリュームや形態は異なるにしてもその中で違和感無く佇んでいる。

隣接の公園とは道路で分断されてはいるが、それに繋がるスロープやブリッジ・通路等の軸線を強調する事によって一体化させる事に成功しているし、敷石やベンチ、外灯などには来待石を使用し地域性にも配慮されている。駐車場や中庭床の芝とコンクリート床のコントラスト、程良い植樹、道路際のコンクリート打ち放し腰壁部分の板張りといい、周辺との調和を図るための工夫が随所になされていることが評価された。

(小草伸春)



優秀賞

掛戸松島の一本松再生



- 所在地** 大田市久手町波根西
- 事業主体** 久手町自治会連合会、久手町商工振興会、久手町観光開発協会、久手公民館
- 施工者** 小谷造園
- 概要** 掛戸松島の一本松は、平成16年9月の台風18号の強風で倒れて枯死したが、地元住民等から資金を募り、再生させた。

地元住民をはじめとする多くの人々の愛情に支えられ、末永く勇姿を見せてほしい

四季折々に表情を変える日本海を背景に、日ごと印象深い姿を見せてくれる「掛戸松島」は、古くから多くの人々に親しまれてきた大田市久手町の名勝である。

松を頂いて海中にそそり立つ高さ約20メートルの奇岩は、今から約700年前、干拓事業に伴って行われた岩山の開削工事の名残という。昭和51年に初代の松が枯死した後、52年に地元有志の手で植えられた二代目が伝統を守ってきたが、平成16年9月、台風によりこの二代目が惜しくも根こそぎ倒されてしまった。地元ではすぐさま対応が協議され、「500円募金」の呼びかけがなされたところほぼすべての世帯(約1400世帯)が応じ、商工団体等からの寄付と合わせて目標を超える資金が集まった。それを元に、平成17年4月、海中の岩場に足場を組んでの難作業を経て植えられたのが現在の三代目「一本松」である。日照りが続いた同年6月には、地元消防団が訓練を兼ねた放水を行いエールを送った。

JRの車窓からも一瞬の絶景を目にすることができる。地元住民をはじめとする多くの人々の愛情に支えられ、末永く勇姿を見せてほしいものである。

(八田典子)



奨励賞

パークタウン出雲



- 所在地** 出雲市今市町
- 事業主体** 島根県住宅供給公社
- 概要** 開発面積 6.1ha
183戸（61戸、県営住宅42戸、市営住宅80戸）
平成13年分譲開始
地区計画（都市計画法）により、建物の用途、高さ、
形態、壁面位置、生垣などを制限

坂道の向こうに広がる一の谷公園の景観とも 坂しっくりと溶け込む、まさにパークタウン

「緑色濃き鷹ノ沢」と出雲高校・校歌の冒頭にも謳われる地である。こんもりと雑木の茂る丘を「共生の森」と名づけて残し、開発された。春には薄紅と白のあでやかな帯となる、つつじに縁どられた坂道が住宅街を東西に分かつ。

その坂を登るたび、のびやかな心持ちになる。なぜか。ひとつには、行く手の空を邪魔するものがないせいもあろう。電線類の地中埋設化が、こんなにも景観をすっきりさせるものかと、つくづく思わずにはいられない。

さらには、緑豊かな環境にふさわしい統一感。街並みの調和を図るため、戸建ての住宅は勾配屋根とすること、屋根と外壁は落ち着いた色彩にすること、自家用以外の広告物の設置は原則認めないこと、道路に面する柵類は生垣、もしくは低木の植栽とすることなど、確たる制限が設けられているのだ。東西それぞれの北側に配された中高層の公営集合住宅にしても、赤瓦の勾配屋根をかぶる。

坂道の向こうに広がる一の谷公園の景観ともしっくりと溶け込む、まさにパークタウン。散策していても心地いい。暮らしている者がいうのだから間違いない。じつは、私も「森と共に生きる」、ここの住人なのである。

（伊藤ユキ子）



奨励賞 江島大橋



- 所在地** 松江市八束町～鳥取県境港市
- 事業主体** 国土交通省中国地方整備局境港湾・空港整備事務所
- 設計者** (株)日本港湾コンサルタント、(株)日本構造橋梁研究所大阪支社
- 施工者** 五洋・東亜・佐伯特定建設工事共同企業体、東洋・若築・りんかい特定建設工事共同企業体、鹿島・ピーエス・川田特定建設工事共同企業体、大林・住友・安部特定建設工事共同企業体、鴻池・日産・日本ピーエス特定建設工事共同企業体、オリエンタル建設(株)広島支店、(株)浅沼組広島支店、松尾建設(株)広島支店、大豊建設(株)広島支店、(株)青木建設広島支店、不動建設(株)広島支店、(株)新井組広島支店、極東・富士・ドービー特定建設工事共同企業体、大成・竹中・大日本特定建設工事共同企業体

- 概要** 橋梁延長 主橋梁部660m、取付高架橋部786.2m
全幅 11.3m
橋梁形式 主橋梁部：PC5径間連続有ヒンジラーメン箱桁橋
取付高架橋部：PC3径間及び4径間連続桁橋
平成16年10月供用開始



その存在感は中海の新しいシンボルにふさわしいものとなっている

平成16年10月に開通した江島大橋は、大型車が通れないなどの不便さがあつた中浦水門に代わり松江市八束町と鳥取県境港市を結ぶ橋梁で、中海圏域の交通ネットワークの中では特に重要なリンク(link:線、交通路)である。橋の構造形式はPCラーメン構造(柱と桁が一体となった構造)というもので、同構造の橋梁では日本一の長さを誇っており、その存在感は中海の新しいシンボルにふさわしいものとなっている。

市民の投票によって中海八景にも選ばれたこの橋は、風をテーマにデザインされているそうだが装飾は控え目な印象で、そのことが、近景ではマイナスイメージになりがちなコンクリートの重量感を爽快な機能美へと変えていた。また、松江側から江島大橋を通して遠く大山を望むと、海に浮かぶ緩やかなアーチが山の稜線と見事に調和し、受賞に値するすばらしい景観を形成している。

(浅田純作)

奨励賞 Audi山陰



- 所在地** 松江市西津田
- 事業主体** 山陽自動車(株)
- 設計者** 永森建築事務所
- 施工者** (株)鴻池組山陰支店
- 概要** 構造 S造 地上2階建
建築面積 926㎡
延床面積 1,149㎡
完成 平成17年10月

雑然としたこの通りのなかで隅々まで行き届いた豊かな空間を作りだしている

車のディーラーが立ち並ぶところと言えば市街地に入る手前の街道沿いに多くはある。その風景も看板・広告塔の林立や道路際ぎりぎりまで所狭しと並べられた車等、全国何処でも同じように見ることができるし、松江もまた例外ではない。このショールームを持つ外国車のディーラーもそんな場所に建っている。

この社屋は白を基調としたガラスとスチールで構成された透明感のある軽快でオシャレな建物だ。付属の屋外展示場も本体とうまくバランスさせているし、その後ろにあるバックヤードの目隠しになっているコンクリート打ちっ放しの屹立した独立壁がさらに場を引き締めているように感じられる。何よりも特徴的な事は、この種の施設には珍しく建物をセットバックさせ空地を程良く確保するとともに植樹や自然石を施し、歩道に広がり潤いを提供していることだろう。敷地に対してゆったりと配置された建物や展示車、抑制の利いた看板やサイン等、雑然としたこの通りのなかで隅々まで行き届いた豊かな空間を作りだしている事が評価された。

(小草伸春)



奨励賞 荒木文之助商店



- 所在地** 松江市天神町
- 事業主体** (有)荒木文之助商店
- 施工者** カナツ技建工業(株)
- 概要** 構造 木造2階建
 建築面積 252.45㎡
 延床面積 641.1㎡
 平成18年6月改修

土を彷彿させるファサードは全体を黒一色で統一し、質素な建物であるが人目を引く

荒木文之助商店のある天神町は松江大橋から白潟本町通り、天神町と続く白潟天満宮までの地区にあり、かつては商業の中心で買物客や行き交う人々で賑わっていた。夏祭りともなると市内はもちろん近在の町からの参拝者で通れないほどの人の群れがありエネルギーに満ちていた。昭和20年・30年代のことである。今日の郊外型消費者動向にともない、空店舗や駐車場が目立ち、シャッターが開かない店も出始めている。

そうした状況のなかであって、屋号「佐草屋」は240年前の江戸・寛政時代から仏具商として続いた老舗らしく、昔を彷彿とさせるファサードは全体を黒一色で統一し、質素な建物であるが人目を引く。

京町家風の格子や板戸を連想させるイメージでモダンにデザインをまとめ、黒の中に唯一生成りの暖簾がやさしく収まっている。建物としては美しく仕上がっているが、周辺との調和に工夫があれば一層成功したのではなかろうか。

「仏壇屋」が天神町通りの先導的なファサードとなり、再び活気ある街となることを期待したい。

(平本映子)



奨励賞 藤野邸



- 所在地** 隠岐郡隠岐の島町久見
- 事業主体** 藤野孝夫
- 設計者** (株)吉崎工務店
- 施工者** (株)吉崎工務店
- 概要** 構造 木造平屋建
延床面積 209.67㎡
(既存改修部分 141.53㎡、増築部分 68.14㎡)
完成 平成17年5月

地域の歴史や文化、そして風土の継承までも考えた施主の情熱に感服

この住宅は隠岐島後の北西部の漁業集落久見にあり、もともと地区の氏神社の宮司の住まいだったものである。現在の建物は、この地区一帯が焼失した天保9年(1838年)の大火の後早い時期に再建されたものといわれ、六間取りで、接客空間である四室続きの座敷を鍵曲がりとする特徴的な間取りをもつ神官屋敷であったが、その後幾度かの改変を受けていた。

施主はこの度の改修に当たり、以前土間であった部分に居住部分を配置する代わりに、接客部分を古図を元に当初の姿に戻すことを決断し、出入口を三カ所(行事によって使い分けていた)に戻したり、建具取り替えに当たってもサッシではなく雨戸と障子のままにするなど、現在の生活形態や住みやすさとは必ずしも相容れないものをも復元されている。赤瓦から銀黒瓦に葺き替えられてはいるが、およそ往時の姿を取り戻し、改築された部分も一体的な仕上がりとなり、通りに対して開放的で、背後の山々や集落の風景にすっぽりと収まる伝統的な民家が再生された。

個人の住まいにおいて、通りや周辺の風景との調和に配慮するのみならず、地域の歴史や文化、そして風土の継承までも考えた施主の情熱に感服するものである。

(伊藤慶幸)



奨励賞 伊藤邸



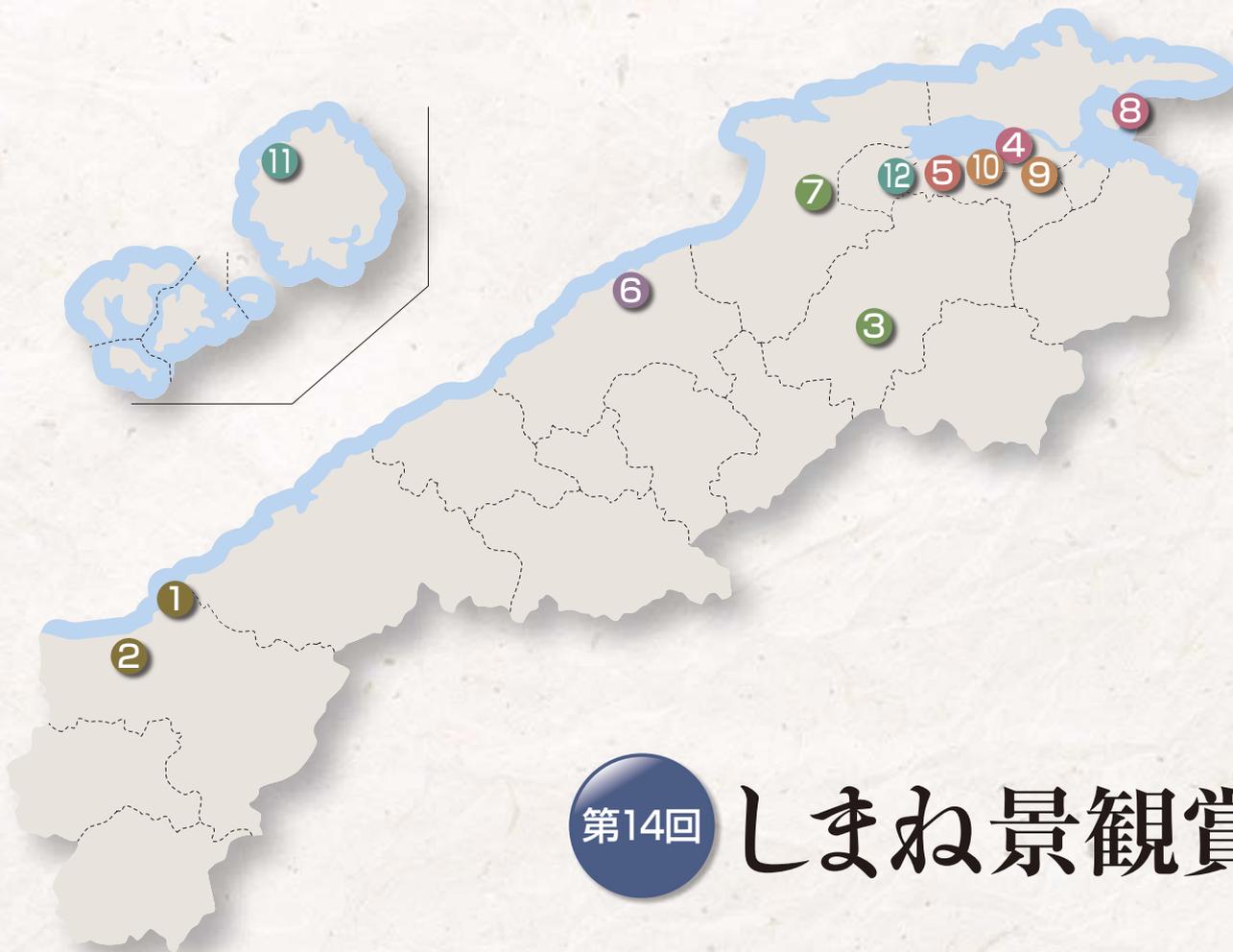
- 所在地** 簸川郡斐川町大字荘原町
- 事業主体** 伊藤文字
- 設計者** 設計トトロ
- 施工者** (有)高橋工務店
- 概要** 構造 木造2階建
 建築面積 131.29㎡
 延床面積 177.10㎡
 完成 平成15年1月

木のもつ柔らかさが醸し出す落ち着いた雰囲気 が、辺りにただよっていて、好感のもてる建物

荘原の町と9号線の間位置する閑静な住宅地の一画にある。個々の住宅がゆとりのあるスペースで建っているが、まだ若干の空き区画も見える。そのせいか、全体的にゆったりとした雰囲気がただよっている。伊藤邸は東と南を路に接する角に建てられている木造二階住宅。なによりも、木材色をやや濃い目にした暖色系の外見がいい。東側から南側にかけて、庭が作られているが、特に東側の落葉樹の植え込みは、建物を一段とやわらかい感じにしている。東側の入口に向かって、一定間隔で枕木が埋め込まれているのもいい。また、家屋の周囲には透き間のある板塀をめぐらせて、或る程度の開放感を演出している。総じて、周辺の景観とも調和をみせており、木のもつ柔らかさが醸し出す落ち着いた雰囲気が、辺りにただよっていて、好感のもてる建物となっている。

(藤岡大拙)





第14回

しまね景観賞

大賞

- ① 水仙の花咲く里づくり
事業主体／鎌手ふるさとおこし推進協議会

大賞

- ② 島根県芸術文化センター グラントワ
事業主体／島根県

優秀賞 -まち・みどり部門-

- ③ 鉄の歴史村の町並み
事業主体／吉田町まち並委員会

優秀賞 -土木施設部門-

- ④ 寺町地区のまちなみ環境整備事業
事業主体／松江市

優秀賞 -公共建築物部門-

- ⑤ 松江市営住宅 萩田団地
事業主体／松江市

優秀賞 -工作物その他・活動部門-

- ⑥ 掛戸松島の一本松再生
事業主体／久手町自治会連合会、久手町商工振興会、久手町観光開発協会、久手公民館

奨励賞 -まち・みどり部門-

- ⑦ パークタウン出雲
事業主体／島根県住宅供給公社

奨励賞 -土木施設部門-

- ⑧ 江島大橋
事業主体／国土交通省中国地方整備局境港湾・空港整備事務所

奨励賞 -民間建築物部門-

- ⑨ Audi山陰
事業主体／山陽自動車(株)

奨励賞 -民間建築物部門-

- ⑩ 荒木文之助商店
事業主体／(有)荒木文之助商店

奨励賞 -個人住宅部門-

- ⑪ 藤野邸
事業主体／藤野孝夫

奨励賞 -個人住宅部門-

- ⑫ 伊藤邸
事業主体／伊藤文子

※設計者・施工者については、完成時の名称

第14回

しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

審査委員

浅田 純作 独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校助教授

平本 映子 松江生活デザイン研究所主宰

伊藤ユキ子 紀行作家

○藤岡 大拙 島根県立島根女子短期大学名誉教授

伊藤 慶幸 島根県土木部長

布野 修司 公立大学法人
滋賀県立大学大学院環境科学研究科教授

小草 伸春 (社)島根県建築設計事務所協会会長

山谷 裕子 画家

八田 典子 島根県立大学総合政策学部教授

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

審査経過

募集期間	平成18年7月3日(月)～9月4日(月)
募集結果	応募総数……89件、応募物件数…83件
第1次審査 (平成18年9月21日～10月6日)	応募書類、写真を基に第2次審査の対象となる34物件を選出。
第2次審査 (平成18年11月6日・7日)	選出された34物件について現地審査及び最終審査会を行い、12物件を選定。
表彰式 (平成19年2月6日)	受賞物件の事業主体、設計者、施工者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈。

第14回 しまね景観賞第2次審査対象物件一覧

応募部門	物件名称	所在地
まち・みどり部門	益田市大谷温泉あじさいロード ※パークタウン出雲 ※鉄の歴史村の町並み 横田の町並み 江津本町（旧江津郵便局周辺）	益田市大谷町（大谷林道沿い） 出雲市今市町 雲南市吉田町吉田 仁多郡奥出雲町横田 江津市江津町
土木施設部門	市道八日市本通線 隠岐空港 木製ガードレール（ウッドGr） ※寺町地区のまちなみ環境整備事業 松江市駅通り周辺整備 北田川支流 低水路護岸 ※江島大橋	雲南市木次町木次地内 隠岐郡隠岐の島町 雲南市吉田町地内 松江市寺町 松江市寺町 松江市北田町 松江市八束町～鳥取県境港市
公共建築物部門	安来節演芸館 ※島根県芸術文化センター グラントフ ※松江市営住宅 荻田団地 松江市八雲かやぶき交流館 松江市営住宅 西の原アパート 志津の里 クラインガルテン 加茂岩倉遺跡ガイダンス	安来市古川町 益田市有明町 松江市宍道町佐々布 松江市八雲町平原 松江市上乃木 飯石郡飯南町 雲南市加茂町岩倉
民間建築物部門	※Audi山陰 ツーリズムの宿 若槻屋 ※荒木文之助商店 山陰合同銀行出雲支店 彩雲堂	松江市西津田 雲南市吉田町吉田 松江市天神町 出雲市今市町北本町 松江市天神町
個人住宅部門	出雲大社宮内の家 西村邸 ※藤野邸 F邸 ※伊藤邸	出雲市大社町杵築東 出雲市渡橋町 隠岐郡隠岐の島町久見 簸川郡斐川町大字黒目 簸川郡斐川町大字荘原町
工作物その他・活動部門	大谷温泉下流 津和野の魅力ある夜の景観づくり活動 雲南市吉田町本町通りの看板 ※水仙の花咲く里づくり ※掛戸松島の一本松再生	益田市大谷町 鹿足郡津和野町後田地区 雲南市吉田町吉田 益田市西平原町 大田市久手町波根西

受付順 ※は受賞物件



平成19年2月

企画・編集／島根県土木部都市計画課